

## 市長の意見交換会<赤泊地区> 質疑要旨

日時：令和7年11月24日（月）14：00～15：00 会場：赤泊総合文化会館3階 多目的ホール

参加人数：16名（下記市職員は含まない）

佐渡市：渡辺市長、岩崎総務部長、北見企画部長、平山財務部長、赤泊行政SC 佐々木 ほか4名

### 1. 市政について

市長より説明	(説明内容)
	<p>○政策における大きな目標、柱について</p> <p>①1番大きな課題と考えている人口減少について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原因 経済的な面より、出産に踏み込めない社会環境 景気回復による賃金上昇 ⇒ 東京への転出増加</li> <li>・目標／対応策 転入転出の差引をゼロにしたい／二拠点居住による経済の循環と労働力の確保 Uターン者の獲得／お仕事グランプリやマッチボックス、コンパスなど佐渡の仕事情報の発信 経済産出額の維持／稼ぐだけではなく支出額を減らす</li> <li>②物価高騰に伴う水道料の値上げについて：経費の上昇と人口減少に伴う収入の減少による一般財源からの繰入増加</li> <li>③フェリー「おけさ丸」更新に係る財政面での課題と空路就航の見通しについて など</li> </ul>

### 2. 質疑

質問者 (居住地区)	意見の要旨	市長の回答	関係部署
(新谷地区)	市道赤泊1号線について、これまで継続で道路側溝の改修及び蓋の設置がされたが、今年度の実施はなかった。地域要望に対し、次年度以降に工事予定との回答だったので、確実に予算措置して、継続での対応をお願いしたい。	個別の予算について今ここでの即答はできない。 建設部から回答のとおり、予算要望の中で対応する。基本的に安全安心の部分は取り組んでいきたい。 (SCで詳細把握しているかの確認がされた。要望回答の内容は把握している旨回答した。)	建設課
(山田西地区)	県道両津真野赤泊線を通行中に、トラブルが発生した際に助けを求めたくても携帯電話がつながらないので検討していただきたい。	携帯電波がつながりにくいのは全国的な問題だが、衛星から電波を受ける時代になると思うので、もう少し待っていただければと思っている。	総務課デジタル広報室
(山田西地区)	仕事はあっても、現場で対応できる技術者が本当に少なく仕事にならないというのが現実です。 現場へ出て働く方々をぜひ市（行政）からも、要望というか要請というか、何かしていただきたい。自分たちも動いているがなかなか集まらず、このままの状態では仕事があっても消化できない。現実に市民が困っている部分がたくさんあります。 ぜひ何かの機会にそういうことを伝えていただけるとありがたい。	市で機会を作り、うちの会社に来ないかということを直接発信しましょと企業に促している。休み方とか給与水準を踏まえ企業側が考えていかなければいけないと思う。 雇用してから人材を育成するような仕組みも必要。 島外からの雇用者向けに、空き家を改修し、住むところを安く提供できるような仕組みも進めていきたい。 元気な高齢者が短期的に活躍できる場として、マッチボックスは良いと思う。	地域産業振興課
(荒町地区)	厚生連というか、佐渡総合病院について、佐渡市もかなりの補助金を出さないと赤字が解消されないのかと不安です。加えて、6階の西病棟40病床余りが閉鎖、伴い入院患者が制限されて非常に心配しています。 厚生連の経営努力でどこまで改善できるのか、今後の見通しがどうなのか、かなり厳しい状況というのは分かりますが、入院はできない、看護師はどんどんやめて非常に少なくなると、悪循環になるのではと心配しています。何かいい方向性が見つかりそうなのか、県がもう少し頑張っていただけるのか、その辺が分かったらお聞かせ願いたいと思います。	病院がなくなることは持続可能な島にとってあり得ない話なので守らなくてはいけない。 看護師の賃金が低水準だからやめていく。若い人たちが、給与カットに加え経営が危ない職場に希望を持って就職できるかと厚生連側にはずっと伝えている。 佐渡市の財政も成り立って病院も成り立つ、このような仕組みをこれから考えていきたい。	健康医療対策課